

第1回 糸魚川市廃棄物減量等推進審議会 会議抄録

- 1 日 時 平成23年8月11日(木) 10時00分開会
12時05分閉会
- 2 場 所 糸魚川市役所2階203・204会議室
- 3 出席者 ・委員18名
新井委員、池亀委員、池田委員、入沢委員、大月委員、小笠原委員、
北村委員、佐藤委員、中山委員、福崎委員、藤野委員、本庄委員
松澤委員、柳委員、山岸(一)委員、山岸(洋)委員、山本委員、渡辺委員
(欠席)内山委員、穂苅委員
・米田市長
・事務局【環境生活課】 渡辺課長、木下参事、渡辺副参事、高野主査、
福光主査
(清掃センター) 伊藤センター長、中村主査
【青海事務所】 二宮主任主事
【能生事務所】 山本主査
・傍聴者 なし

4 次 第

- (1) 開 会 渡辺課長
(2) 市 長 挨拶 米田市長
(3) 会 長 挨拶 山岸会長
(4) 糸魚川市ごみ有料化制度とそのあり方に係る諮問 市長から会長へ
(5) 議 事 進行 山岸会長

<主な質疑・意見>

各項目について資料に基づき説明し、その後委員から質疑・意見をいただいた。

① ごみ処理基本計画の進行管理について 資料 No. 1 資料 No. 2

委員) 基本方針の平成23年度計画の中で「各学校や地域への出前講座の実施」とあるが、対象となるのは児童だけで、保護者は含めない講座なのか。

事務局) 直近の講座では児童だけを対象として行ったが、保護者も含めての希望があれば対象として実施したい。昨年度は全校に案内を出したが、実施したのはそのうち2校程度だった。

委員) 出前講座の実施回数について、具体的数値目標を明確にしてはどうか。

事務局) ご意見のとおり数値目標を設定したい。

委員) 高齢者を対象とした出前講座も実施してもらいたい。

事務局) 現在も実施しているが、継続して取組みたい。

委員) ゆとり教育が下火になってきているが、実際に学校側で出前講座を実施する時間的余裕等があるのか。

事務局) ご指摘のとおり、時間的に厳しくなっており、大野小学校では朝礼の時間に行うなどして対応をしていた。

委員) 出前講座を一度実施したところから、再度の依頼等はあるか。

事務局) ほとんどがリピーターである。

委員) 基本方針の「もったいない」の心を育むについて、行政としても実践してもらいたい。

事務局) 目に見える取組みとしては、上早川小学校と木浦小学校で牛乳パックのリサイクルの取組みをはじめた。

委員) 牛乳パックリサイクルを実施しているのはその2校だけなのか。

事務局) 強制的な実施も可能かもしれないが、それでは長続きしないと考えている。

委員) 事業系ごみの処理手数料の見直しについて、家庭ごみは減って事業系ごみは増えている現状がある。展開調査をさらに徹底し、厳しく実施することによって産廃ごみの混入を防ぐことができ、事業系ごみを減らすことができるのではないか。現場の担当は憎まれ役になるかもしれないが。

事務局) 事業系ごみのチェック及び指導は現在も行っているが、なかなか減らないのが現状。業界団体への周知等も含め、今後の対応を考えたい。

委員) 事業系ごみと産業廃棄物の違いを教えてください。

事務局) 例えば同じ「魚のごみ」を捨てるにしても、缶詰業者が出せば「産業廃棄物」スーパーが出せば「事業系ごみ」といったように事業者の形態により区分が異なってくる。

委員) 事業者が法律を遵守するような仕組みがあれば、これらの問題は自然と良くなる。具体的には、ISO14001 やエコアクションなどの第三者認証であるが、市内でこれらを取得している事業者数を把握し、目標値を設定するだけでも指標となるのではないか。

事務局) エコアクションについては、現在市内で取得しているは1社のみである。

呼びかけはしているものの、反応はあまりない。

委員) 例えばエコアクションを取得した事業者は、事業系ごみの展開調査を免除とか特典を付けてはどうか。

事務局) 検討課題としたい。

委員)「フリーマーケット等の開催支援」とあるが、フリーマーケットに限らず、不用品の交換情報をもっと充実させてはどうか。

事務局) 青海の総合福祉会館「ふれあい」ではそういった掲示板を出している。

また、「使わなくなった学生服がもったいない」という話もあったが、なかなか再利用のうまい方法が見つからないというのが現状である。

委員) リサイクルの充実は地元商店の圧迫につながるような気もして、気が引ける部分もある。

委員) ごみの持ち込みは現在 30 kgまで無料であるが、有料化後もこのままでは整合性がないのでは。

事務局) 今後どうするかについては、有料化全体の中で見直す方向で検討していく。

委員) 現在配布されているごみカレンダーは文字が小さく見にくいので、高齢者向けに改良してほしい。また「出し方便利帳」についても、後半部分の一覧表の字が小さく見づらい。

事務局) 限られた大きさやページ数の中で必要な情報を書き込むため、どうしてもこのような文字サイズになってしまう。来年以降の物はそういった点についても考慮したい。

委員) 布類の日に綿製品以外の布類も出してもいいと聞いたが、そうであればそのように記述してほしい。

事務局) 地域の収集業者によって対応が異なる部分があると聞いているので、各収集業者に確認し、取り扱いを統一したうえで周知したい。

② ごみ有料化の取組みについて 資料 No. 3

委員) 現在、紙製容器包装類を含む紙類の収集日は月に1度しかないが、紙容器類だけの回収日を別途に設けるなどすれば、ごみの減量につながるはずなので、行政でも工夫が必要ではないか。

事務局) 検討させていただく。

委員) 県内の一部町村では有料化を条例化せずに、有料の指定袋を買う制度のところもあるそうだが、有料化との違いはなにか。

事務局) 結果的にやっていることは似ているが、費用負担を明確化するために条例化しているといった部分である。

委員) 有料化後のごみ袋の種類等はどのように考えているのか。

事務局) 特に決まっていないが、色つきはコストがかかると聞いている。また、黄色はカラス除けに良いといった話もあるが、あまり色が濃いと中が見えず、透明

だとプライバシーがないなどの問題がある。

委員) 指定外の袋で出された場合の対応は考えているか。

事務局) 検討していくが、そういった場合のために、無料の専用袋を地域に渡している自治体もある。

委員) 上越市では、収集できないごみが出された場合は、電話するとすぐに取りに来てくれる。また、誰が出したか分かるよう、袋に番地の番号を書くようにしている。ただ、他所から引っ越してくる人には転入の手続きの際に窓口でよく説明しないと混乱が生じる。

委員) 柏崎市の有料化の導入当初は、ごみ袋が1セットずつ各世帯に無償配布された。

委員) 上越では、燃やせるごみと生ごみを分けて収集していると聞いたが、煩わしさはないか。

委員) 生ごみ用の袋の方が安いので分別はしているが、分別が大変なので全体的にみて取組んでいるのは半数程度ではないかと思う。

事務局) 他市での前例がある分、後から有料化を実施する方がやりやすい部分も多い。

委員) 上越市では、紙製容器とプラスチック製容器の収集日が週に一回ずつあるが、この2種類は結構な量が溜まるので検討してはどうか。

事務局) 参考にさせていただく。

(6) 次回の日程について

事務局) 次回の審議会の日程は、9月末頃をめどに正副会長と日程調整し、案内させていただきます。

(7) 閉会

小笠原副会長あいさつ